E 環境への取組み
nvironment

環境方針

南都銀行は、日本人の心の故郷（ふるさと）、古都奈良の地に本拠を構え、地域とともに歩んでおります。悠久の歴史の中で守られてきたこの素晴らしい風土を後世に引き継ぐため、地域のリーダーシップを取って、環境の保全と循環型社会の形成に努めてまいります。

1．恵まれた自然環境や、歴史的風土の保全に配慮し、環境への負荷低減を事業活動の基本と認識し行動するため、「環境マネジメントシステム」を構築します。なお、環境パフォーマンスを向上させるため、このシステムを継続的に改善し、汚染の予防に努めます。
2．環境に配意した金融商品・サービスの開発・提供等を通じ、環境保全に取り組むお客さまを支援します。
3．日常業務を行う中で、環境への影響を考慮することにより、省資源・省エネルギーと廃棄物の削減を推進します。
4．環境法規制、及びその他の要求事項を順守し、環境保全活動に取り組みます。
5．この方針を基に実践するため、具体的な環境目標を設定し、定期的に見直しを行います。

2001年10月1日（制定）
2008年 7月1日（改定）
2017年12月1日（改定）

株式会社　南都銀行
取締役頭取　橋本 隆史

用語解説

環境マネジメントシステム
環境保全のための活動を行う上で、組織を管理し、活動を監査するための仕組み。このシステムを運用するための基本となる指針が、上記の「環境方針」。

環境保全活動の推進

■ 環境ISO活動への取組み

当行は平成14年、本店および事務センターを対象に環境ISO（ISO14001）の認証を取得し、その後リサイクルセンターや研修センター等において認証を追加取得しました。

認証対象部署においてISO規格に準拠した環境保全活動を継続しているほか、認証対象外の営業店や関連会社などでも「クールビズ」や「身近な環境保全活動」を実践するなど、当行グループを挙げて環境保全活動に取組んでいます。

なお、これまでの活動への意識が十分に定着していることを踏まえ、平成26年2月、当行の環境マネジメントシステムがISO14001の国際規格に適合していることを自らの責任をもって宣言する「自己適合宣言（※）」に移行しました。移行後も更なる取組み強化に努めています。

また、当行は、環境省が展開する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同登録するとともに、同省の提唱するキャンペーン「Fun to Share」にも参加し、無理なく炭素ガスを減らすという本キャンペーンに沿った活動を実践しています。

※第三者による評価として、外部コンサルタントであるSOMPOリスケアマネジメント株式会社から自己適合宣言に関するコメントを得ています。

リサイクルセンター

保存期限の過ぎた文書の機密保持とリサイクルを目的として、平成19年6月にリサイクルセンターを設置しました。

大型シュレッダーで裁断した紙を製紙工場に運んでトイレットペーパーやメモ帳などに再生しており、平成29年度中にリサイクルした紙の量は310トンに達しました。

今後も紙ゴミの排出削減と紙資源の循環に貢献してまいります。

リサイクルセンター

エネルギー使用量の削減

当行は、従来より環境ISO活動の一環として空調の設定温度の適正化（室温は冷房時28℃・暖房時20℃）のほか、店舗やショーウィンドーへのLED照明の採用など、エネルギー（電気＋都市ガス＋重油）使用量の削減に努めています。

また、平成22年度以降の4年間で21年度比5%超のエネルギー使用量の削減をめざす計画を策定し、省エネ型空調設備の導入等、中長期的なエネルギー使用の合理化を進めてまいりました。

また、平成23年度からは、節電施策にも取組んでおり継続してエネルギー使用量の削減に努めています。

河川美化活動

当行は、河川の美化活動として、平成26年から「大和川一斉清掃」(奈良県等が主催)に、また、平成29年からは「木津川流域クリーン大作戦」(木津川流域クリーン大作戦実行委員会主催)にボランティアとして参加しています。

「大和川一斉清掃」では流域の秋篠川で当行ホッケー部も清掃活動に参加

「いこま市民パワー株式会社※」から生駒市内2ヵ店が電力受給を開始

平成30年2月、奈良県初の自治体新電力会社「いこま市民パワー株式会社」から、民間事業者で初めて生駒市内の2ヵ店(生駒支店、元町出張所)が電力受給を開始しました。

同社は生駒市内の「太陽光」や「小水力」といったクリーンエネルギーで発電した電力を優先的に供給しており、当行は同社の電力を受給することにより、環境モデル都市生駒市が取組んでいる温室効果ガスの軽減、再生可能エネルギーの普及拡大、エネルギーの地産地消に貢献できるものと期待しています。

当行は、今後も同社に対し、地域金融機関として専門的知見を活かし、経営アドバイスや運転資金融資など財政面での運営支援を行ってまいります。

※平成29年7月、生駒市が当行・大阪瓦斯株式会社・生駒商工会議所・一般社団法人市民エネルギー生駒と株主間協定を締結して設立した会社。同社は、事業で得た収益を生駒市民の生活利便性の向上や地域の活性化を図るために用いることを基本理念としており、電力供給による収益も市民に還元されることになります。

「木(き)づかい運動」と「Yoshino Heartプロジェクト」

「木づかい運動」とは、国産材の積極的な利用を通じて植樹や間伐等の森林の健全なサイクルを取り戻し、CO_2をたっぷり吸収する元気な森林づくりをする運動です。

当行は、平成20年11月に銀行業界で初めて林野庁が推進する「木づかい運動」のロゴマークの使用承認を受けています。

当行は「Yoshino Heartプロジェクト(※)」支援の一環として、環境にやさしい木製品の配付や「吉野3.9ペーパー」の利用を通じ、環境面における木材利用の重要性をアピールしていますが、これは「木づかい運動」とも連動する活動です。

平成23年10月には当行の活動が「木づかい運動」の著しく有効なPRにつながったとして、農林水産大臣から感謝状を受けました。

※P.20ご参照

Yoshino Heartロゴマーク

B-(3)-080031
木づかいサイクルマーク

「吉野の桜を守る会」に参加

当行は、近年、立ち枯れなど衰退の兆候が目立つ世界遺産・吉野山(奈良県吉野町)のシロヤマザクラ(約3万本)を守るため、官民を挙げて設立された「吉野の桜を守る会」に特別会員として参加しています。

同会に対しては金銭面の支援に留まらず、各種イベントへのボランティア・スタッフの派遣など活動面からも積極的に支援しており、地元金融機関として「吉野の桜」の保護・育成活動に積極的に協力しています。

イベント時の募金活動

吉野山の母樹から苗木を育てるための“サクランボ拾い”

同会では、吉野山に桜の苗木を植える取組みを行っており、その一環として、イベント“サクランボ拾い”を実施しています。このイベントには当行行員もボランティアスタッフとして参加しています。

環境配慮型金融商品

当行は、地域における環境保全活動を金融面からも積極的にバックアップしています。

<ナント>グリーン私募債	環境に配慮した経営や環境負荷の低減に資する事業を行われている事業者さまが発行される私募債の引受に際して、保証料や手数料の一部を優遇する商品です。
<ナント>環境配慮型融資	環境に配慮した経営を行われている事業者さまの環境配慮にかかる設備資金に対応した、当行所定の環境ランクに基づき金利を優遇する商品です。
<ナント>エコマイカーローン	「低公害車」または「低燃費車」に該当する自動車のご購入を応援する低金利(<ナント>マイカーローン比)の商品です。
<ナント>エコリフォームローン	省エネのための住まいのリフォームを応援する低金利(<ナント>リフォームローン比)の商品です。